

山本伸子著

「高校国語科学習指導の探究―表現指導を中心に―」

本書は、著者が最近十五年ほどの間書き続けてこられた実践研究報告を集めたものである。章立ては以下の四章から成る。第I章「国語I」の学習指導を求めて、第II章「国語表現」の学習指導を求めて、第III章「国語II」の学習指導を求めて、第IV章 読書指導、漢字指導を求めて。

前書きにも述べておられるように、本書の主要な部分を成すのは「表現指導」である。ここでは、著者が誠実に取り組んでこられた実践の数々が具体的資料とともに示されている。また、それらと同時に「国語表現」の評価のあり方」等も示されており、学習者の産出した文章の評価の在り方に日々頭を悩ませている私達にとって、有益な示唆を与えてくれるだろう。

さらに、第IV章では、読書指導、漢字指導の実践が報告されている。「国語の授業が生徒の文章生活や読書生活に裏付けられたものではなく、宙に浮いたように相互の関連性が稀薄になってきている」(p.235)という問題意識の上に立ち、精緻な授業実践が展開されている。

読者指導、漢字指導はもちろんだが、とりわけ表現指導の在り方を究明していく上で私達に多くの示唆を与えてくれる高者である。

(A5判 三一四ページ 一九九五年四月二十日 漢水社

三九五〇円)

(前田 直彦)